

## 住宅の内装材の維持管理

- コーポラティブハウジングの場合 -

大谷女短大 藤本佳子

目的 内装材を清掃性等の評価を行い、居住者側からの維持管理のしやすい内装材を明らかにすることが目的である。

方法 コーポラティブハウジングは需用者の個別要求への対応が可能なので内装材も多種類が用いられていると考えられる。調査対象は個別要求への対応度が高いと思われる住宅の協同建設をすすめる市民の会の団地から建設年の古い4団地をとりあげた。主婦を対象に、内装材の選択者、選択理由、内装材の変更意志、その理由と清掃性等の評価のアンケート調査。又竣工図面から部位、部屋別内装の下地、基材、仕上材及び外装材のリスト作製所在地及び府県北ニュータウン内。構造RC造。調査期間1983年11～12月。回収数 545件

結果 ①調査対象家庭の概要 一家族数平均4.3人。二世帯家族8%。世帯主年齢平均40才。年収平均404万円。共働き率約45%。職業専門的技術的職業が全体の約1/3。②現住宅には4割が満足、2割が不満、他はどちらでもない。その理由、日照が短い、10取りが適当でない、管理規約が多過ぎる。③永住意識の有る人4割、住み替えたい人の割。その理由は、壁付きがほしい、協同生活に馴じめない。④内装材の手入れのしやすさ、清掃がしやすいのは台所と浴室の壁(タイル)、床はどの部屋も全てしやすい。b.汚れが目立たないのは居間の壁(左官塗)、和室の壁(吹付)、目立つのは、子供室の壁(ビニールクロス、ペンキ塗)、台所の壁(ビニールクロス、ペンキ塗)等。c.傷がつきやすいのは居間の床(フローリング) d.手入れにお金がかかるのは居間の床(カーペット)等。e.かびがはえやすいのは、浴室の壁(タイル) ⑤清掃をよくする人としない人の手入れ評価の異なりは、居間壁のかびと子供室壁の清掃。